

トマム地域の活性化へ

トマム地区活性化

推進協議会を開催しました。

10月1日に第2回トマム地区活性化推進協議会が行われました。

本協議会は、トマム地区における今後の方向性や地区の活性化に向けた対策を検討するため、住民の皆様や(株)星野リゾート・トマム、村を構成員として今年7月に設置されました。

第2回会議では、地区の現状や課題、住民の皆様のご意向等を把握するため、7月から8月にかけて協議会が実施した集落実態アンケート調査の結果報告が行われた後、今後のトマム地区の方向性についての意見交換が行われました。

各委員からは、アンケートから見える地区の課題や魅力、可能性などに関する意見が出され、活発な議論が行われました。また、会議では、アンケート調査の結果を住民の皆様にも報告し、トマム地区の将来について住民同士で話し合っていただく場である「地域の未来を語る会」を今後開催していくことも

決定しました。

本協議会は、今年度中の集落対策方針の策定に向け、今後も住民の皆様のご意見を伺いながら取組を進めてまいりますので、協議会の取組に対するトマム地区の皆様のご理解と、多くのご参加をお願いいたします。 ※協議会の会議は公開されており、傍聴が可能です。



町内会で地域カフェ事業

「ミナ・トマム」がオープン！

トマム町内会では、地域住民が気軽に交流できる場所として、地域カフェ事業を立ち上げました。

10月15日に、オープニングイベントを開催し、町内会長と子ども達によるテープカット後に、来場者には豚汁やおにぎりが振る舞われました。

皿や箸などの食器を持参することとして、ゴミの減量化の協力を呼びかけながら、手づくりのカフェオープンとなりました。

地域カフェの名称は、参加者による投票の結果『ミナ・トマム』に決定しました。「ミナ」はアイヌ語で「笑う」という意味ですが、皆という言葉にもかけた『地域で集い、みんなが笑いながら過ごせる交流の場所』という、ステキな名称となりました。

2年前に、中央地区に地域カフェ「ぼっこてぶくろ」が開設されましたが、トマムのように地域全体で考え合い、町内会で運営が取り組まれる地域カフェは初めての取組です。

地域カフェ「ミナ・トマム」は、地域の思いの詰まった大切な場所となりそうです。



地域カフェのオープンを祝うテープカット

地域カフェの場所は、トマム小中学校の向かいにあり、開放時間は、平日の午前9時から午後5時まで（土日は要望に応じて）、期間は12月まで開かれます。

「地域おこし協力隊」が行く④ 地域活動の取り組みを通じて

地域おこし協力隊

浦田 剛

占冠村役場産業建設課林業振興室所属の浦田剛（うらたつよし）です。主に、野生鳥獣関係を担当しております。

日頃から、村民の皆様には公私にわたり大変お世話になっており、心より御礼申し上げます。8月号から続いた「地域おこし協力隊が行く」シリーズ最終回は、私の活動を紹介いたします。

私は昨年7月に占冠村へ来るまで、札幌で機械メーカーに勤めていました。余暇を使ってヒグマやエゾシカの調査にも従事して、占冠村へも幾度か仕事で来ましたが、その頃には、将来ここに移住するとは夢にも思いませんでした。思いがけないご縁で村に採用され、家族とともに転がり込んで、はや一年余が過ぎました。

我々、林業振興室地域おこし協力隊の目標は、「野生鳥獣の保護管理」(エゾシカ対策基本構想)による「地域おこし」です。効果的な管理捕獲、より望ましい生息状況、充実した狩猟活動を実現することで、被害防止と資源活用との両立をめざしています。

壮大なテーマですが、有効活用促進と猟区設定、モニタリング体制構築の三点を短期的目標に据え、取り組んでいきます。



調査機材の設置

学生実習の指導



役場での業務は、エゾシカ、ヒグマ、アライグマに関することが中心です。代表的なものとして、生息状況調査や許可捕獲に係る申請、調整、報告事務があります。さらに、猟区設定に係る全般、協定を結ぶ酪農学園大学との連携、捕獲手法等の試験事業、鳥獣関連の環境教育活動への対応、一般の林務用務など、多岐にわたります。

野生鳥獣の生息状況や、これらを取り巻く社会環境が日々刻々と変化しているため、業務の中では常に新たな検討や調整が求められます。猟区設定をはじめとする新規案件もあり、飽きの来ない緊張した日常を送っています。業務を通じて、まず現場の感覚を身につけること、そして多くの関係者の協力を得ることが大切であると、身にしみて感じています。

業務外では、猟友会占冠部会の一員として、捕獲作業を含む

野生鳥獣対策に従事していません。まだまだ半人前ですが、早く捕獲戦力の一員となれるよう、また捕獲現場の実情を知ること、業務の改善にも活かしていきたいと思っています。

これからも、自分の活動が地域にどのようなメリットを生み出せるかを追求し、ひいては自分たちの生活基盤をどこに築いていけるのかを考えていきたいと思えます。今後とも何とぞよろしく願っています。

「地域おこし協力隊」とは、総務省の財政支援（最長3カ年）のもとで、地方自治体が都市住民を呼び込み、地域の活性化につながる業務に従事しながら、地域の定住をめざすものです。全国で978名、北海道内では168名（平成25年度統計）、占冠村は現在4名が配置されています。



エゾシカの捕獲作業